

## 【神奈川区】令和 4 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 4 年 6 月 8 日 14 時 33 分 ～ 15 時 21 分
場 所	神奈川区役所 本館 5 階 大会議室
出席者	<p>【座長】宇佐美 さやか 議員</p> <p>【議員：4 名】藤代 哲夫 議員、小松 範昭 議員、竹内 康洋 議員、中山 大輔 議員</p> <p>【神奈川区：24 名】日比野 政芳 区長、松本 貴行 副区長、本間 睦 福祉保健センター長、野田 晴子 福祉保健センター担当部長、西嶋 祐一 神奈川土木事務所長、藤沢 直樹 災害対策担当部長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和 4 年度 神奈川区運営方針について</li> <li>2 令和 4 年度 神奈川区編成予算総括について</li> <li>3 令和 4 年度 神奈川区自主企画事業について</li> </ol>
発言の 要 旨	<p>【議題 1～3】</p> <p>藤代議員 10 頁「1 地域防災力向上事業」の「(5) 福祉避難所関連事業」に「地域ケアプラザなど」とあるが、ここに保育園や幼稚園は含まれているのか。</p> <p>近藤高齢・障害支援課長 保育園などは含まれていません。福祉避難所として協定を結んでいるのは、地域ケアプラザ、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害福祉事業所、地域活動ホームです。</p> <p>藤代議員 子育てに関連する共助の取組は、神奈川区としてあるのか。</p> <p>山口こども家庭支援課学校連携・こども担当課長 保育園の共助の取組として、園長先生を対象に 3 年間かけて、「まち保育」の研修を行っております。園児たちとお散歩をしながら、どのような建物があるか、危険があるかを体験する取組を行っており、この結果を発展させながら防災力を高</p>

めていきたいと考えています。

藤代議員 避難所というよりも、ソフトな面での取組を地域で行われているということですね。福祉施設には保育園や幼稚園も含まれると思う。横のつながりが大切だと考えるので、福祉避難所に保育園や幼稚園も含めて、共助の取組を強化して欲しい。

34頁「24 まちづくり推進事業」の「(1) 企画調整・まちづくり事業」に西菅田団地の活性化とあるが、地域ケアプラザや西菅田団地の住民、区役所が協働でスタートした地域交通は、手法や負担など難しい事業である。ニーズが多様化しており、地域交通の考え方が単に駅やスーパーまで行くということではなくなっている。西菅田団地の中だけではなく、幅広く展開していくために、神奈川区の最初の取組事例としてしっかりと検証して成功させたい。事例として形になれば、他の地域など横につなげて、点と点を結び面として広がりが出てくるのではないかと考えている。

西菅田団地の取組は始まったばかりだが、事業の考え方や広げていくという意味で、今後どのように進めていくのか区長の考えを聞きたい。

日比野区長 住民や関わられている皆様のお話を伺って感じたのは、地域やNPO法人の方々の御協力で進んでいる事業であり、住民お一人お一人にしっかりと対応している、生活の変化に応じて対応をいかようにも変更できるという、ニーズにきちんとマッチしていける素晴らしさです。行政が立ち上げた事業ですと、公平にサービスを提供しなければならないので、硬直的に見えてしまう場合があるかもしれません。この事業では、「この方の降車場所は少しずらしてこの位置が良い」や、「乗車降車の時はこういうことに気をつけよう」、「リンクしているほかの交通機関とはこういう風に調整したら良いのではないかなど、きめ細かいサービスをされています。この事業は始まったばかりですが、ノウハウを他の地域で横展開できると良いので、実績を積みあげていきたいと考えています。

藤代議員 負担の部分や運営方法など、神奈川区の場合は施設や病院を含めて環境が整いやすいと思う。やはり、地域からの発意が一番大事ではあるが、促すという点では区役所の取組が求められる。西菅田団地の取組を横展開できるのか、横展開するのならどのような形がよいのか検討し、区役所からしっかりと発信して取り組んで欲しい。

竹内議員 昨年度、市全体で進めている地域交通について確認した時に、神奈川区の六角橋で済生会と地域ケアプラザが実証実験を行っているという説明を聞いたが、認識はあるか。

佐藤区政推進課長 六角橋のケースについては、地域主体で動いているとは聞いていますが、区役所では詳細を把握していません。内容について確認いたします。

竹内議員 多様な取組ができれば良いと思う。地域交通については、市会で代表質問をしたが、道路局の地域交通サポート事業の他、政策局も予算を組んでいる。都市整備局の金沢八景での京急電鉄との実証実験や経済局のみなどみらいのAI 乗り合いタクシー等様々な事業がある。議会を含めて皆が、地域交通は大切と考えている。醸成されてきた議論によって、取りまとめる時代が来ている。今年度は予算1億円で2箇所を実証実験を行うと聞いている。大切なのは、西菅田の取組のような団地で行うものや、旭区の若葉台団地で行うオンデマンドの取組等、地域性によって様々な手法があることだ。

神奈川区の場合は、西菅田と菅田東でも状況が違う。西菅田団地の中でも7街区のように坂の上の方に住んでいる人は、近くにスーパーがあるが、帰りはのぼって帰ることになるので、敬老パスを使用し横浜駅のスーパーに行っている。近くのスーパーまでの距離を歩くのが困難という課題に対して何かできないか。敬老パスを充実しても、バス停が無くなってしまいう可能性もあり、課題解決にはならない。自動車も、100歳まで生きる時代に70歳で免許を返納したら、残りの30年どうやって移動するのかを考えてこなかった。今回の運営方針に、「高齢化や子育て世代の流入など地域社会の変化等を踏まえながら」とあるが、この変化として、地域交通は大きな課題である。西菅田団地の問題だけでなく、各地域も含めて、地域交通は時代に合った非常に大きなテーマである。神奈川区として政策的に考えていかなければならないと思うが、どう考えるか。

日比野区長 横浜をはじめとして都市部において、交通事故の発生が急増した交通戦争という時代もありましたが、その後、登下校時の児童生徒を守るPTAの見守り活動等、顕在化した問題に対し地域と関係機関が連携

して取り組んできた歴史あります。神奈川区においても地域で取り組んできましたが、今まさに、高齢者に課題がシフトしてきている、交通問題の弱者が高齢者になってきたと、地域の方々の話を伺っていると感じます。神奈川区としては、21の地区連合町内会に対して担当の職員をつけ、部長、課長、係長等でチームを作り、皆様の生活の中での切実な声をお聞きして、共に解決する地区担当制度を設けています。この活動の中で把握した課題について、対応する部署や事業も見極めながら、区役所と地域の方々が一緒に考え前に進んでいきたいと考えています。

竹内議員 コーディネートが大切であり、課題解決は地域ケア会議の仕組みのように、事業者やボランティア、地域から提案して担っていただく等、多様な担い手が必要と考えている。かながわ支え愛プランと考え方は一緒に、地域交通はいきがいにもつながる、暮らしそのものである。継続して我々と一緒に神奈川区として地域交通の検討を推進して欲しい。

宇佐美議員 19頁「6 かながわ子育てかめっ子支援事業」の「(1) 土曜日両親教室」は年12回実施しているのか。

岡こども家庭支援課長 はい。令和3年度はコロナ禍において1回中止し、年11回開催しました。令和4年度は月1回行っており、継続して年12回実施する予定です。

宇佐美議員 今年度は2回実施済ということだと思うが、参加人数はどのぐらいか。

岡こども家庭支援課長 土曜日の両親教室は、主にお父さんの参加を促すものですが、月に30~40人、年間で400人程度のご参加をいただいています。

宇佐美議員 参加された方の感想などは聞いているのか。

岡こども家庭支援課長 アンケートを毎回取っていますが、平日は仕事で参加できないお父さんに、沐浴指導や母体の変化、夜泣きなど様々なことが起こるということを事前にお伝えするので、自分がどういう時に、お母

さんや赤ちゃんにサポートができるのかイメージできたと満足いただいています。

宇佐美議員 心の準備はとても大切で、この時期、なかなか集まるのが困難な中、継続して開催していて良い事業だと思う。

20 頁「7 かながわ安心子育て支援事業」の「(4) ひとり親家庭相談支援事業」で、相談日数の増とあるが、困っている方が多いということか。

岡こども家庭支援課長 ひとり親家庭といっても様々な方がいらっしゃいますが、経済的困窮やお子様の教育について悩みを抱えた方が多くいらっしゃいます。区で児童扶養手当を受給されている方が中心となりますが、お電話や来庁されて手続きする方など、年 1,200 名ほど対応しています。さらにお電話をかけて、様々なサービスが充実しているので紹介しつつ対応しています。

宇佐美議員 相談の日数が増えたことに加えて、相談メニューも増えたという認識で良いか。

岡こども家庭支援課長 はい。

備 考